

# 第1回家畜衛生技術検討会を開催しました

令和4年6月21日

岐阜大学との連携事業の一環として、家畜衛生にかかる連携事業や共同研究などについて、情報共有や検討する場として、家畜衛生技術検討会を開催しています。

第1回は、岐阜大学附属家畜衛生地域連携教育研究センター（G e F A H）主催で、外部から講師を招いて開催しました。

## ■日 時

令和4年6月21日（火） 13：00～15：00

## ■場 所

岐阜大学応用生物科学部 102講義室

## ■発表内容

第1部「口蹄疫から世界を見る」

第2部「口蹄疫の防圧について」

## ■講 師

宮崎大学客員教授、麻布大学客員教授 坂本 研一 先生  
（元農研機構・動物衛生研究部門 部門長）

家保職員及び岐阜大学の学生が、インドネシアにおける口蹄疫の最新発生情報と病性鑑定や農場立入時に留意すること等について学ぶことができました。

## <口蹄疫とは>

口蹄疫は、口蹄疫ウイルスによって起こる伝染病。主に偶蹄動物が感染し、法定伝染病に指定されている。感染力が非常に強く、2010年の日本の発生では292農場の約21万頭が感染し、約2,350億円の被害を与えた。

口蹄疫ウイルスは、北米や欧州、オセアニアを除く世界各国に分布し、アフリカとアジアでは発生が続いている。

発症動物は、口、鼻、蹄、乳頭に水疱を形成し、発熱、よだれ、食欲不振、歩行困難などの症状を示す。水疱の中には大量のウイルスが含まれ、これが破れて周囲を汚染する他、唾液、鼻汁、ふん便、乳汁などからも排出される。感染動物や汚染畜産物、あるいは人や車両を介して伝染し、エアロゾルによる空気伝播も起こる。

牛は口蹄疫ウイルスに最も感染しやすく、豚が感染した場合は牛に比べて大量のウイルスを排せつする。

※口蹄疫に関する詳細はこちらをご覧ください。

○国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

[https://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease\\_dictionary/houtei/k03.html](https://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_dictionary/houtei/k03.html)